

第3回 隠岐の島町庁舎整備計画説明会 中村会場 質疑録

日 時： 平成28年5月23日

場 所： 中出張所

住民参加者数： 8名

(住民 A) 説明を聞き、合併特例債を使って新庁舎を建設した方が良いと思う。今の庁舎は水害にも弱いし、防災拠点としては余り好ましくないと思う。

経済的な負担からしても、新庁舎建設が有利と考える。

(住民 B) 今の場所なら20億円で建つかもされないが、移転するということになるとかなりの広さの敷地が必要と思うが、それでも20億円で建つか？

→ (役場) 20億円というのは建物の建設費のみである。建設場所が変われば用地費・造成費は変わるので入れていない。今回は耐震補強が良いか、新築が良いかの提案をしており、場所については今後検討される。

(住民 B) 新築の方が良いとは思いますが、かなりの広さの敷地が必要だと思うので、用地費も多額になるのではないかと。

→ (役場) 建築費20億円も概算であり、これも押さえられるかもしれない。また、経済比較では、耐震補強より新築が7.7億円経済的であると説明したが、用地費等が増えてもその範囲に十分収まると考えている。

(住民 C) 新庁舎は鉄筋コンクリートか？それとも木造か？

→ (役場) 構造、大きさ、場所等については、現在のところ決まっていない。方針として環境に配慮した庁舎が基本的な考え方の中にあり、それを踏まえ今後、町民をまじえた隠岐の島町庁舎建設検討委員会の中で話しをしながら決めていきたいと思っている。

(住民 C) 人にやさしい庁舎ということも言っているし、木造の耐用年数も昔と違ってあがってきている。島内の木を使うべきではないかと。

→ (役場) 完全な木ではなくて、内部に鉄骨を入れて集成材で覆った材料を構造材にするなどの方法が他町でもとられているが、集成材では隠岐産の木は難しい。木造なら隠岐産の木を使えば良いと考えている。

(住民 C) 木造だと高価かもしれないが、できるだけ安価になる方法を見つけて建築して欲しい。

→ (役場) 他地区の説明会でも「身の丈に合った庁舎を造りましょう」という同様の意見があった。

(住民 D) 隠岐の島は昔から林業の島だったが。鉄骨やコンクリートもいいかもしれないが、できれば隠岐の木を少しでも多く使う方法を考えて欲しい。

→ (役場) 町では個人の建築について隠岐産の木を使った場合の補助も行ってお

り、庁舎においても隠岐産の木をできるだけ使うような基本計画を立てます。また、公共建築物では木材の利用促進が法律でも求められている。

(住民 A) 庁舎は耐震化しても 20 年後には建て替えしないといけないのでしょうか。

→ (役場) 現庁舎は耐用年数 65 年と仮定しており、20 年後には建て替えが必要と考えている。尚、新しい庁舎は 100 年と言ったが、元々の造りも違い、計画的な保全をすればという仮定の基で考えている。

(住民 B) 現位置に立てるとしたら、地盤の嵩上げなどが必要ではないか。

→ (役場) 現位置となれば、水害に対する土木費の対策費用、駐車場の購入費用などが別途かかってくると思われる。

(住民 B) 西郷方面に出たときは、役場、病院などいろいろな場所を全部廻りたい。それを考えると場所は限られてくると思う。

→ (役場) その様な利便性も考えて場所は選定する予定です。

(副町長) 今日のご意見は持ち帰り検討し、最終的な方針を決定しますが、中身は公募で集められた皆様からなる検討委員会で決められます。